

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1493400137
法人名	社会福祉法人 愛光会
事業所名	グループホーム みなみの里
訪問調査日	平成20年6月30日
評価確定日	平成20年7月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 年 月 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1493400137
法人名	社会福祉法人 愛光会
事業所名	グループホーム みなみの里
所在地	246-0026 横浜市瀬谷区阿久和南3-18-10 (電話) 045-369-3735

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成20年6月30日	評価確定日	平成20年7月31日

## 【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平) 19年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤	5 人, 非常勤 18 人, 常勤換算 12.9 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	37,000 円	
敷金	有(150,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 1200 円			

### (4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 81.3 歳	最低	65 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団芳洋会 横浜いずみ台病院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体は社会福祉法人愛光会で、スタートは特別養護老人ホームの“みなみの苑”である。その後“みなみの苑”に併設するデイサービス、居宅介護支援センターを、グループホームは“みなみの苑”の付近に3つ、相模原に1つを開設、相模原はデイサービス、居宅介護支援センターを併設している。ロケーションは相鉄いずみ野線弥生台駅から徒歩17~8分の丘の山頂近くにある。みなみの里の隣には早く開所したみなみの風が並んである。自然に恵まれた静かな環境で老後を楽しんでもらうことを考え、この2つのグループホームの周りには周遊路を作り、果実のなる樹木を植え、同一敷地内に駐車場、公園、あずまやなどを作り、散歩、バーベキューなどのアウトドアイベント、花見など出来る環境を作り、地域の方にも自由に利用して頂き、交流できるコミュニティスペースとして地域に還元することを考えている。コミュニティスペースは地元出身の理事長の地域への思いの表れである。あずまやは前がウッドデッキのスペースで3ユニット(?)の鳥ゲージで烏鶺鴒、鶺鴒、カナリヤがいてそこへ近所から逃げたきたニワトリが住み着いている。2匹のラブラドル、周回路の突き当たりには卓球台が置かれご利用者さんが楽しめる楽しいホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p><b>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</b> 開所1年目であるので体制固めに取り組んだ。職員についてはベクトルあわせを、ご利用者さんに対しては個人別の生活暦、日常活動同行を、介護計画についてはアセスメントに於けるセンター方式の導入と活用を、書類については統一化を図った。1年間でご利用者さんの生活サイクルの把握を終え個人の意向を汲み取り、ケアが実施出来る体制が固まりつつある。今後も個人にフォーカスしたケアの強化に努めて行く。</p>
	<p><b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b> 今回の自己評価に於いて、職員の意向に関しては個人別に聞き取りを行い、日程的に面談出来ないケースでは連絡帳を活用して意見を記入してもらうことで集め、集約は管理者、ケアマネジャー中心として纏めをした。初めての評価であり、プロセスに於ける気付きや指摘事項については改善計画を立て改善して行くことにしている。</p>
重点項目②	<p><b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</b> 運営推進会議については社会福祉法人愛光会がこの阿久和南地区で展開しているグループホーム「みなみ」「みなみの風」それにここ「みなみの里」が3ホーム合同で実施しており、「みなみ」「みなみの風」が実施していた運営推進会議に「みなみの里」が参加する形でスタートした。3ホーム合同会議は特養「みなみ苑」の会議室を使って行っている。メンバーは自治会として連合自治会長、民生委員、地域包括支援センター、本部所長、事務長、各ホームのご家族、管理者である。「みなみの里」の管理者は地元町内会3班へのアプローチも始めている。</p>
	<p><b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</b> ご家族の来訪は多く、毎日みえる方から週1回の方までそう云った頻度で訪問がある。イベントについても協力的であり、常に半数以上の参加があり、役割も担ってくれる。ホームとしてのモットーとしてはご家族が気楽に訪れることが出来るような雰囲気を作ることを大切にしている。医療連携体制の認可を受け、ご家族とは同意書を交わし、実際にターミナル期に入った時点では更に充分話し合うよう心掛けている。</p>
重点項目④	<p><b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> ①町内会の関係は隣で先発の「みなみの風」経由で回覧板も回って来て、ご利用者さんと一緒に次に回している。②町内会のイベントが近くの公園で行われるので参加している。③また特養「みなみ苑」の納涼祭はグループホームも共催であり近隣の方々と交えて盛大に行われ定着している。④ケアプラザには卓球をする利用者さんと利用している。⑤ボランティアでは囲碁のお相手、フラダンス、日本舞踊、歌の方が来てくれている。⑥系列の幼稚園の行事に参加している。⑦近所の人が畑を開放してくれてじゃが芋堀を楽しんでいる。⑧理事長が畑を作り、野菜など新鮮なものが食べられる。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念「安全・安心・信頼」を共有し玄関に掲示している。社会福祉法人愛光会の理事長は地元の人で、古くからの長いお付き合いがあり地域密着と云うよりも地域が一体であり、その絆は深い。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時にオリエンテーションを行い、一人一人に理念方針を明記したものを配布し、常に共有化に勤めている。ユニット会議等の席上で機会あるごとに理念に触れ、正面玄関にも掲示してある。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	回覧板で情報を得たり、職員に地元出身が多いので地域行事の参加は進んで行なっている。今後も地域活動には出来るだけ参加し交流を深めて行くと共に、コミュニティスペースとして地域に還元することを考えて作られたスペースを地元の人達に活用してもらうことが理事長の地域への思いである。	○	地域との融合を目指して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員の意向に関しては個人別に聞き取りを行い、日程的に面談出来ないケースでは連絡帳を活用して意見を記入してもらうことで集め、集約は管理者、ケアマネジャー中心として纏めをした。ユニットリーダーを中心に不十分な箇所の強化に努め、会議などで話し合い取り組んでいる	○	これからも勉強会などを通じて取り組んで生きたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は社会福祉法人愛光会が阿久和南地区で展開しているグループホーム「みなみ」「みなみの風」「みなみの里」が3ホーム合同で実施しており、「みなみ」「みなみの風」が実施していた運営推進会議に「みなみの里」が参加する形でスタートした。運営推進会議に出席し、他ホームの意見を参考にしている。	○	今後とも、積極的に参加しそこでの意見や提案を活かして生きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケアセンターなどを通して、ボランティアの方との交流がある。	○	色々な情報を得てサービスの向上に努めて生きたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、明細書と共にみなみ通信で写真を沿えて近況報告をする。又、受診後はその日に電話報告する。ご家族はイベントについても協力的であり、常に半数以上の参加があり、役割も担ってくれる。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームとしてのモットーとしてはご家族が気楽に訪れることが出来るような雰囲気を作ることを大切にしている。ご意見箱も設置してある。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動は極力ないように勤めるとともに、介護はチームケア体制の強化に努めている。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じた研修の機会を設け、ホーム内でも活躍できる場面をつくっている。今後も職員の意識向上に努め自己啓発につなげていきたい。	○	今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは訪問し話し合う機会があるので参考にしている。	○	グループホームみなみの里の独自のネットワークを作り、同業者との交流を促進したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	”みなみの苑”に併設するデイサービス、居宅介護支援センターや愛光会経営の他の2つのグループホームなどを通じ馴染みながらの入居を進めている。入居前には見学し、他利用者とお茶やレクなどで過ごして頂き、又家族と相談しながら馴染みのもの置いたりして違和感なく生活できるように努めている。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人には残存能力を活かして、不足する部分については支えあいながら、尊厳を傷つけないように、良好な関係が築けるようにしている。自分自身に置き換え、支えあう関係を心がけている。		今後も継続して実施して行く。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	絶えず本人の立場になって考えているし、自己決定が出来るように援助している。自分自身に置き換え、支えあう関係を心がけている。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の暮らしでの生活、会話からケアカンファレンスを行い、家族とも話し合って介護計画を作成する。	○	今後も家族・本人の意向を汲み取り継続する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員間で連絡ノートを利用してケアの統一を図っている。急を要する場合は都度職員間の話し合いの機会を持っている。その際、家族の意向を前もって収集するようになっている。	○	今後も家族・本人の意向を汲み取り継続する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合、状況に応じて対応している。関連施設の特養での催し物への参加による生活の変化をもたせている。”みなみの苑”に併設するデイサービス、居宅介護支援センターや愛光会経営の他の2つのグループホームなどの有効活用を図って行く。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により、殆どの方が協力病院の往診を受けている。検査結果はその都度、家族に報告し把握してもらっている。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	連携体制の認可を受け、ご家族とは看取りの指針、同意書を交わし、実際にターミナル期に入った時点では更に充分話し合うよう心掛けている。入所時から機会あるごとに話し合いの場を設けている。	○	機会あるごとに家族との話し合いの場を持ち、家族の希望を把握するように努める。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心を傷つけない対応、尊敬の念を忘れない対応に心がけている。個人情報は一箇所にまとめて保管し、記録については日頃から注意している。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調、気候などを考慮し、共同生活でありながら、個人の希望に沿った過ごし方をできるようにしている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りから後片付けまでその人の残存能力に応じて職員と一緒にしている。食事は一緒にテーブルの席について摂っている。個人の能力を活かせるように工夫をしながら進めていくようにしている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	自立の方は好きな時間帯に入浴できる。介助が必要な方はその日の体調を見て、日中に入浴して頂く。本人の意向をできるだけ尊重し、入浴が楽しいものであるように支援して行く。	○	本人の意向をできるだけ尊重し、入浴が楽しいものであるように支援して行く。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の家事や今までなさって来られた趣味は続けて頂き、又新しいものにも挑戦して頂く。(囲碁、散歩、草花観賞など)新しい分野にも挑戦できるように支援して行きたい。	○	新しい分野にも挑戦できるように支援していく。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、外気浴は天候状況を見ながらできるだけ毎日実施している。		今後も継続して実施して行く。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	庭に出る事はできるが、塀や門がないので危険の為、玄関は電子ロックとなっているが、日頃、極力開放するよう実施している。		常に鍵を掛けなくてもすむようなケアを念頭に置き、日頃、極力開放するよう実施している。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力の下に避難訓練を実施している。隣の施設とも相互協力関係を密にしている。		自治会関係の方々とも協力がスムーズに得られるように努めていきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量を記録し、個々の体調を把握して調節し、食の形態を変えたりしている。栄養バランス、カロリーは栄養管理出来る食材提供会社に一任している。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場には季節感を表す、手作りの飾り物や、お花で賑やかにしている。照明は時間に応じた照度と色合いが選べるように工夫している。又、なじみの音楽が絶えず流している。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣類、小物家具など本人の馴染みの物を持ってきて頂いている。		今後も継続して実施して行く。



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム みなみの里
(ユニット名)	遊
所在地 (県・市町村名)	横浜市瀬谷区阿久和南3-18-10
記入者名 (管理者)	相澤 節子
記入日	平成 20 年 6 月 16 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念「安全・安心・信頼」を共有し玄関に掲示している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時にオリエンテーションを行い、一人一人に理念方針を明記したものを配布し、常に共有化に勤めている。	○	ユニット会議等の席上で機会あるごとに理念に触れている。 正面玄関に掲示してある。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域、家族には説明し、理解してもらえるように努力している。又目に付きやすい場所に掲示してある。		
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	開所時に近隣の方を招き交流を深めたので、散歩時に気軽に声を掛けていただき、花を頂くことがある。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	回覧板で情報を得たり、職員に地元出身が多いので地域行事の参加は進んで行なっている。	○	今後も地域活動には出来るだけ参加し交流を深めて生きたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	自治会などと話し合い取り組んでいる。		施設の中での活動を紹介し地域活動にいかせることがないかどうか提案をしていく。
---	--	--------------------	--	--

### 3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニットリーダーを中心に不十分な箇所の強化に努め、会議などで話し合い取り組んでいる	○	これからも勉強会などを通じて取り組んで生きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に出席し、他ホームの意見を参考にしている。		今後とも、積極的に参加しそこでの意見や提案を活かして生きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケアセンターなどを通して、ボランティアの方との交流がある。	○	色々な情報を得てサービスの向上に努めて生きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修への参加を呼びかけ、参加していきたい。	○	一人でも多くの職員が研修などに参加できるように機会を与え、理解と活用を促進したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間の意識、統一。対策、対応等を常に話し合っている。		ユニット会議等でケアカンファレンスの時に注意をしている。

項目

取り組みの事実  
(実施している内容・実施していない内容)

(○印)

取り組んでいきたい内容  
(すでに取り組んでいることも含む)

### 4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書、重要事項説明書を説明し、同意の上、サインを頂いている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活、散歩時の会話などから汲み取り、改善に努力している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、明細書と共にみなみ通信で写真を沿えて近況報告をする。又、受診後はその日に電話報告する。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気軽に話ができる環境作りに努めている。ご意見箱も設置してある。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングを設けたり、日常的にも自由に話し合う事ができる。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要に応じた職員の勤務体制はできている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動は極力ないように勤めるとともに、介護はチームケア体制の強化に努めている。		今後も体制強化に努めたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じた研修の機会を設け、ホーム内でも活躍できる場面をつくっている。	○	今後も職員の意識向上に努め自己啓発につなげていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは訪問し話し合う機会があるので参考にしている。	○	グループホームみなみの里の独自のネットワークを作り、同業者との交流を促進したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が気楽に話しかけることが出来るような環境作りに取り組んでいる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	耳を傾け、話し合い、意欲を持って働けるように勤めている。		

## II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の意向、思いを把握できるように最も近い家族からの情報と本人の表情や言動から不安や求めている事を把握できるように努めている。	○	本人の意向に沿えるような支援を心がけていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の悩み困り事を理解し、いつでも連絡を取り合い面談できるようにしている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々に応じたサービス対応は行なっている。		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学し、他利用者とお茶やレクなどで過ごして頂き、又家族と相談しながら馴染みのもの置いたりして違和感なく生活できるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人には残存能力を活かして、不足する部分については支えあいながら、尊厳を傷つけないように、良好な関係が築けるようにしている。	○	自分自身に置き換え、支えあう関係を心がけていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	気さくに会話できるような関係作りを心がけているし、外出にも一緒に出かけるように声かけをしている。	○	これからも継続していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の不安を理解し、利用者とのよりよい関係が築けるように努力している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人からの電話や外出を大事にしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	散歩、レクなどで良い関係ができています。職員が間に入り関係作りの支援に心がけている。外出レク等で仲間意識・支えあう関係ができています。	○	利用者同士での買い物や散歩の機会も確保したい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	近況報告を頂いている。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	絶えず本人の立場になって考えているし、自己決定が出来るように援助している。	○	支えあう関係を心がけていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、在宅時のケアマネからの情報収集を行っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	表情、立ち振る舞い、会話などで把握できるように努めている。	○	ケース記録、申し送りノート、業務日誌を活用。

#### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の暮らしでの生活、会話からケアカンファレンスを行い、家族共話し合って介護計画を作成する。	○	今後も家族・本人の意向を汲み取り継続する。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員間で連絡ノートを利用してケアの統一を図っている。急を要する場合は都度職員間の話し合いの機会を持っている。その際、家族の意向を前もって収集するようにしている。	○	今後も家族・本人の意向を汲み取り継続する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の情報を記録し、申し送りして情報の共有に努めて、ケア方法、介護計画に活かしている。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合、状況に応じて対応している。関連施設の特養での催し物への参加による生活の変化をもたせている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の趣味にあったボランティアの来訪。徒歩圏内にある阿久和地区センターの活用。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同業者、ケアセンターなどで良いと思ったものは取り入れる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	社会福祉協議会より囲碁のボランティアを派遣してもらっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により、殆どの方が協力病院の往診を受けている。検査結果はその都度、家族に報告し把握してもらっている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	各週の往診、必要に応じて病院での受診もある。		
	○看護職との協働			



45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣の施設に常勤看護師がいるので協力してもらう事ができる。月二回協力病院の訪問看護を受け入れ健康管理に努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医師、看護師、家族共連絡を取り合い情報交換に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針を打ち出し、入所時から機会あるごとに話し合いの場を設けている。	○	機会あるごとに家族との話し合いの場を持ち、家族の希望を把握するように努める。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	協力病院の主治医・看護師、家族と連携をとり終末期の対応について話し合っている。	○	機会あるごとに家族との話し合いの場を持ち、家族の希望を把握するように努める。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族、ケアマネと十分の話し合いをし、理解納得できるようにする。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心を傷つけない対応、尊敬の念を忘れない対応に心がけている。個人情報は一箇所にまとめて保管し、記録については日頃から注意している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意思、表現を大事にしたいので危険がない限り見守り対応を行なっている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調、気候などを考慮し、共同生活でありながら、個人の希望に沿った過ごし方をできるようにしている。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理美容、行きつけの理美容に行かれるのも本人、家族と話し合い自由にして頂いている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りから後片付けまでその人の残存能力に応じて職員と一緒にしています。食事は一緒にテーブルの席について摂っています。	○	個人の能力を活かせるように工夫をしながら進めていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人の状況、好みに合わせて過ごしてもらっている。		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々に違うので夜間帯はおむつ使用でも、その方に合った誘導を行なっている。	○	排泄のパターン・習慣お把握し、その人らしく過ごせるように支援していく。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	自立の方は好きな時間帯に入浴できる。介助が必要な方はその日の体調に見て、日中に入浴して頂く。 職員の都合で入浴時間が決まってしまうことがある。	○	本人の意向をできるだけ尊重し、入浴が楽しいものであるように支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の体調によるが、日中の散歩、適度の運動で夜間は眠れるように調節している。入床時間は個々に合わせている。	○	夜間の巡視
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の家事や今までなさって来られた趣味は続けて頂き、又新しいものにも挑戦して頂く。(囲碁、散歩、草花観賞など)	○	新しい分野にも挑戦できるように支援していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を自己管理している方もいるが、買い物時に手渡して、自身で支払うようにしてもらおう。又、買い物時は一緒に出かけて手伝って貰うようにしている。	○	今後も継続実施していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、外気浴は天候状況を見ながらできるだけ毎日実施している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族、知人との外出は自由です。外出、外食も利用者の希望を取り入れている。		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望した時はその場で支援している。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入所時に面会時間は自由ですと伝えてある。ホームが留守になる時は事前に連絡する。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての講習を受け理解している。身体拘束をしている方もいない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	庭に出る事はできるが、塀や門がないので危険の為、玄関は電子ロックとなっている。	○	鍵を掛けなくてもすむようなケアに取り組んでいく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在を把握し、見守りや声掛けするが自由に過ごせるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人の持ち物で危険だと思われる物は家族の理解を得て、ホーム内で預かるようするが、必要に応じて出す。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	状態に応じた職員間の話し合い、カンファレンスを行い事故防止に努めている。		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員全員が救命講習を受けている。今後も定期的に行なう。	○	定期的に訓練を実施する。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力の下に避難訓練を実施している。隣の施設とも相互協力関係を密にしている。	○	自治会関係の方々とも協力がスムーズに得られるように努めていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	落ち着いた生活ができるように家族と話し合ったり、職員間でも常に対処策を考慮している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	健康チェック表、申し送りなどで情報を共有し、見守り、訪問看護、医師の診断を受ける。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法は家族にも伝えてある。職員はファイルされているのでいつでも見る事は可能。定時薬でない時は申し送りをし、業務日誌に記載し、副作用などに注意する。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	健康チェック表と医師の指示を受けながら対応。適度の運動、散歩、水分補給に心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後磨かれているか確認し、自立の方は見守り、声かけします。介助が必要な方は義歯を洗浄、夜間はポリグリック使用。	○	訪問歯科検診を受けるとともに口腔ケアについての研修を実施。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量を記録し、個々の体調を把握して調節し、食の形態を変えたりしている。栄養バランス、カロリーは食材提供会社に一任。		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員はインフルエンザ、年2回の健康検診を受けている。手洗い、うがいは常に心がけています。消毒液も洗面所に備えてある。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防の為、残り物はその場で処分する。包丁、まな板は毎夕消毒します。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	小鳥のさえずりが聞こえる吾妻屋で、一休みできる憩いの場はどなたが来られても良いように開放されている。犬やニワトリ、季節の草花や野菜なども憩いの場です。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	供用の場は季節感を表す、手作りの飾り物や、お花で賑やかにしています。照明は時間に応じた照度と色合いが選べるように工夫されている。又、なじみの音楽が絶えず流れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お話されている方、レクをされている方など自由に過ごされています。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣類、小物家具など本人の馴染みの物を持ってきて頂いている。		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>リビング、トイレは24時間換気扇を使用。リビングは時々空気の入れ替えを行い、居室はその方にあった温度調節をする。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物の壁際には随所に手摺をつけている。バリアフリーになっているのでぐるっと廻って元に戻るようになっている。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>自立できるように支援して、その方に良い方法を選んで実施していく。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>外回りには木々、草花が植えられているし、犬、鳥などがいて利用者を楽しませている。一方、吾妻屋では歌集を開き合唱したり、お茶のみをしたりしています。大きくなったやさいが食卓を賑わすこともあります。</p>		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明


評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム みなみの里
(ユニット名)	楽
所在地 (県・市町村名)	横浜市瀬谷区阿久和南3-18-10
記入者名 (管理者)	相澤 節子
記入日	平成 20 年 6 月 16 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念「安全・安心・信頼」を共有し玄関に掲示している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時にオリエンテーションを行い、一人一人に理念方針を明記したものを配布し、常に共有化に勤めている。	○ ユニット会議等の席上で機会あるごとに理念に触れている。正面玄関に掲示してある。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域、家族には説明し、理解してもらえるように努力している。又目に付きやすい場所に掲示してある。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	開所時に近隣の方を招き交流を深めたので、散歩時に気軽に声を掛けていただき、花を頂くことがある。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	回覧板で情報を得たり、職員に地元出身が多いので地域行事の参加は進んで行なっている。	○ 今後も地域活動には出来るだけ参加し交流を深めて生きたい。
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	自治会などと話し合い取り組んでいる。		施設の中での活動を紹介し地域活動にいかせることがないかどうか提案をしていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニットリーダーを中心に不十分な箇所の強化に努め、会議などで話し合い取り組んでいる	○	これからも勉強会などを通じて取り組んで生きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に出席し、他ホームの意見を参考にしている。		今後とも、積極的に参加しそこでの意見や提案を活かして生きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケアセンターなどを通して、ボランティアの方との交流がある。	○	色々な情報を得てサービスの向上に努めて生きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修への参加を呼びかけ、参加していきたい。	○	一人でも多くの職員が研修などに参加できるように機会を与え、理解と活用を促進したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間の意識、統一。対策、対応等を常に話し合っている。		ユニット会議等でケアカンファレンスの時に注意をしている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書、重要事項説明書を説明し、同意の上、サインを頂いている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活、散歩時の会話などから汲み取り、改善に努力している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、明細書と共にみなみ通信で写真を沿えて近況報告をする。又、受診後はその日に電話報告する。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気軽に話ができる環境作りに努めている。ご意見箱も設置してある。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングを設けたり、日常的にも自由に話し合う事ができる。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要に応じた職員の勤務体制はできている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動は極力ないように勤めるとともに、介護はチームケア体制の強化に努めている。		今後も体制強化に努めたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じた研修の機会を設け、ホーム内でも活躍できる場面をつくっている。	○	今後も職員の意識向上に努め自己啓発につなげていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは訪問し話し合う機会があるので参考にしている。	○	グループホームみなみの里の独自のネットワークを作り、同業者との交流を促進したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が気楽に話しかけることが出来るような環境作りに取り組んでいる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	耳を傾け、話し合い、意欲を持って働けるように勤めている。		

## II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の意向、思いを把握できるように最も近い家族からの情報と本人の表情や言動から不安や求めている事を把握できるように努めている。	○	本人の意向に沿えるような支援を心がけていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の悩み困り事を理解し、いつでも連絡を取り合い面談できるようにしている。		
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々に応じたサービス対応は行なっている。		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学し、他利用者とお茶やレクなどで過ごして頂き、又家族と相談しながら馴染みのもの置いたりして違和感なく生活できるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人には残存能力を活かして、不足する部分については支えあいながら、尊厳を傷つけないように、良好な関係が築けるようにしている。	○	自分自身に置き換え、支えあう関係を心がけていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	気さくに会話できるような関係作りを心がけているし、外出にも一緒に出かけるように声かけをしている。	○	これからも継続していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の不安を理解し、利用者とのよりよい関係が築けるように努力している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人からの電話や外出を大事にしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	散歩、レクなどで良い関係ができています。職員が間に入り関係作りの支援に心がけている。外出レク等で仲間意識・支えあう関係ができています。	○	利用者同士での買い物や散歩の機会も確保したい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	近況報告を頂いている。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	絶えず本人の立場になって考えているし、自己決定が出来るように援助している。	○	支えあう関係を心がけていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、在宅時のケアマネからの情報収集を行っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	表情、立ち振る舞い、会話などで把握できるように努めている。	○	ケース記録、申し送りノート、業務日誌を活用。

#### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の暮らしでの生活、会話からケアカンファレンスを行い、家族共話し合って介護計画を作成する。	○	今後も家族・本人の意向を汲み取り継続する。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員間で連絡ノートを利用してケアの統一を図っている。急を要する場合は都度職員間の話し合いの機会を持っている。その際、家族の意向を前もって収集するようにしている。	○	今後も家族・本人の意向を汲み取り継続する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の情報を記録し、申し送りして情報の共有に努めて、ケア方法、介護計画に活かしている。		



3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合、状況に応じて対応している。関連施設の特養での催し物への参加による生活の変化をもたせている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の趣味にあったボランティアの来訪。徒歩圏内にある阿久和地区センターの活用。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同業者、ケアセンターなどで良いと思ったものは取り入れる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	社会福祉協議会より囲碁のボランティアを派遣してもらっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により、殆どの方が協力病院の往診を受けている。検査結果はその都度、家族に報告し把握してもらっている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	各週の往診、必要に応じて病院での受診もある。		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣の施設に常勤看護師がいるので協力してもらう事ができる。月二回協力病院の訪問看護を受け入れ健康管理に努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医師、看護師、家族共連絡を取り合い情報交換に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針を打ち出し、入所時から機会あるごとに話し合いの場を設けている。	○	機会あるごとに家族との話し合いの場を持ち、家族の希望を把握するように努める。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	協力病院の主治医・看護師、家族と連携をとり終末期の対応について話し合っている。	○	機会あるごとに家族との話し合いの場を持ち、家族の希望を把握するように努める。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族、ケアマネと十分の話し合いをし、理解納得できるようにする。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心を傷つけない対応、尊敬の念を忘れない対応に心がけている。個人情報は一箇所にまとめて保管し、記録については日頃から注意している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意思、表現を大事にしたいので危険がない限り見守り対応を行なっている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調、気候などを考慮し、共同生活でありながら、個人の希望に沿った過ごし方をできるようにしている。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理美容、行きつけの理美容に行かれるのも本人、家族と話し合い自由にして頂いている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りから後片付けまでその人の残存能力に応じて職員と一緒にしています。食事は一緒にテーブルの席について摂っています。	○	個人の能力を活かせるように工夫をしながら進めていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人の状況、好みに合わせて過ごしてもらっている。		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々に違うので夜間帯はおむつ使用でも、その方に合った誘導を行なっている。	○	排泄のパターン・習慣お把握し、その人らしく過ごせるように支援していく。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	自立の方は好きな時間帯に入浴できる。介助が必要な方はその日の体調に見て、日中に入浴して頂く。 職員の都合で入浴時間が決まってしまうことがある。	○	本人の意向をできるだけ尊重し、入浴が楽しいものであるように支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の体調によるが、日中の散歩、適度の運動で夜間は眠れるように調節している。入床時間は個々に合わせている。	○	夜間の巡視
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の家事や今までなさって来られた趣味は続けて頂き、又新しいものにも挑戦して頂く。(囲碁、散歩、草花観賞など)	○	新しい分野にも挑戦できるように支援していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を自己管理している方もいるが、買い物時に手渡して、自身で支払うようにしてもらおう。又、買い物時は一緒に出かけて手伝って貰うようにしている。	○	今後も継続実施していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、外気浴は天候状況を見ながらできるだけ毎日実施している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族、知人との外出は自由です。外出、外食も利用者の希望を取り入れている。		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望した時はその場で支援している。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入所時に面会時間は自由ですと伝えてある。ホームが留守になる時は事前に連絡する。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての講習を受け理解している。身体拘束をしている方もいない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	庭に出る事はできるが、塀や門がないので危険の為、玄関は電子ロックとなっている。	○	鍵を掛けなくてもすむようなケアに取り組んでいく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在を把握し、見守りや声掛けするが自由に過ごせるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人の持ち物で危険だと思われる物は家族の理解を得て、ホーム内で預かるようするが、必要に応じて出す。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	状態に応じた職員間の話し合い、カンファレンスを行い事故防止に努めている。		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員全員が救命講習を受けている。今後も定期的に行なう。	○	定期的に訓練を実施する。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力の下に避難訓練を実施している。隣の施設とも相互協力関係を密にしている。	○	自治会関係の方々とも協力がスムーズに得られるように努めていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	落ち着いた生活ができるように家族と話し合ったり、職員間でも常に対処策を考慮している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	健康チェック表、申し送りなどで情報を共有し、見守り、訪問看護、医師の診断を受ける。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法は家族にも伝えてある。職員はファイルされているのでいつでも見る事は可能。定時薬でない時は申し送りをし、業務日誌に記載し、副作用などに注意する。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	健康チェック表と医師の指示を受けながら対応。適度の運動、散歩、水分補給に心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後磨かれているか確認し、自立の方は見守り、声かけします。介助が必要な方は義歯を洗浄、夜間はポリグリック使用。	○	訪問歯科検診を受けるとともに口腔ケアについての研修を実施。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量を記録し、個々の体調を把握して調節し、食の形態を変えたりしている。栄養バランス、カロリーは食材提供会社に一任。		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員はインフルエンザ、年2回の健康検診を受けている。手洗い、うがいは常に心がけています。消毒液も洗面所に備えてある。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防の為、残り物はその場で処分する。包丁、まな板は毎夕消毒します。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	小鳥のさえずりが聞こえる吾妻屋で、一休みできる憩いの場はどなたが来られても良いように開放されている。犬やニワトリ、季節の草花や野菜なども憩いの場です。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	供用の場は季節感を表す、手作りの飾り物や、お花で賑やかにしています。照明は時間に応じた照度と色合いが選べるように工夫されている。又、なじみの音楽が絶えず流れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お話されている方、レクをされている方など自由に過ごされています。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣類、小物家具など本人の馴染みの物を持ってきて頂いている。		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>リビング、トイレは24時間換気扇を使用。リビングは時々空気の入れ替えを行い、居室はその方にあった温度調節をする。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物の壁際には随所に手摺をつけている。バリアフリーになっているのでぐるっと廻って元に戻るようになっている。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>自立できるように支援して、その方に良い方法を選んで実施していく。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>外回りには木々、草花が植えられているし、犬、鳥などがいて利用者を楽しませている。一方、吾妻屋では歌集を開き合唱したり、お茶のみをしたりしています。大きくなったやさいが食卓を賑わすこともあります。</p>		



## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)